

1. 調査報告概要表

作成日 2010年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500663
法人名	東洋マインド株式会社
事業所名	グループホーム 新井荘
所在地	群馬県太田市新井町285-4番地 (電話) 0276-48-0456

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年3月15日

【情報提供票より】(22年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤専任6人,兼務1名 非常勤 1人常勤換算5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28000~30000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(10000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(2月 20日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低 68 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田診療所 堀江病院 石堂歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域との関係が築かれている。利用者は地域の住民として近所の人達と交流を持っている。散歩の時には立ち寄る家があり交流している。地域の人からは野菜などいただいている。防災時の協力体制にも地域住民の協力ができている。運営推進会議は地域の人が多く参加している。会議のメンバーの提案により利用者の安全のための防災ベルが設置された。地域住民にとっても大切な施設と捉えられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>プライバシーの確保と徹底では声かけを注意したり、改築を行い入浴時のプライバシーの確保を行った。食事を楽しむことのできる支援では昨年より一緒に食事をする機会を多くした。栄養摂取や水分確保の支援では水分量の記録を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ケアマネジャーが原案を作成し職員に見てもらった。昨年の評価を検証し改善についても話し合い職員の意見を取り上げている。ケアマネジャーがまとめ記載している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に一度開催されている。メンバーは区長、老人会、民生委員、地域代表者、家族代表、利用者代表が参加している。施設から状況報告などされている。参加者より防災面での話し合いがなされ災害時の協力体制が話し合われた。避難訓練には地域住民の参加がある。又連絡網も出来上がった。参加者より外に知らせるベルの設置の提案があり玄関先に防犯ベルを設置した。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者が定員7名のホームで利用者の半数以上が生活保護受給者という事もあり、管理者が意見の吸い上げを行いたいと考えている。要望や意見が出にくく、アンケートなら意見を言いやすいのではないかと考えアンケートをとる予定となっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が地域住民であり地域とのつながりができている。散歩時には立ち寄る家もできている。野菜なども近所からいただいて食事に提供されている。近所の人立ち寄りやすいように花を植えたり工夫している。自治会に加入して敬老会、お祭り等参加している。防災時の協力体制も地域に依頼して避難訓練には地域住民の参加が実現している。日常的に地域とのかかわりが築かれている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭から家庭へ・・・今までの理念に地域の輪を大切に する新しい理念を職員、運営会議委員の意見を聞き作り 上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を普段の会話の中や職員会議な どで取り上げ共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており敬老会や錦町の行事などに積 極的に参加している。管理者も地域の住民であり住民 との交流を大切にしている。野菜をいただいたり、散歩 時には寄らせてもらい休んだりお茶を飲んだりできる関 係が地域とできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解している。今回の自 己評価はケアマネジャーが原案を作り職員全員で意見 を出し書き換えなど行った。昨年の評価を踏まえて全 員で検討している。ケアマネジャーがまとめ記録して いる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	2ヶ月に一度定期的開催されている。会議で取り上 げた議題が行政にもすぐに届き改善された。会議の中 で委員より防災、災害時近所がすぐに駆けつけられる ように外にベルを取り付けたらどうか・・・と提案があり会 議を重ねて設置できた。地域の連絡網も出来上がった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者、ケアマネジャーは行政に出掛けて相談などに行っている。介護保険更新申請の支援を行っている。医療保険の相談など行政と連絡を密に取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来た家族にはその都度報告をしている。毎月の請求書と共に金銭の報告、領収書なども郵送にて行っている。3ヶ月毎に「おたより」をだし行事の予定、連絡事項、健康状況など報告をしている。急変した場合は電話で家族に連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族との関係を大切にしようとしている。家族から意見など聞きだす工夫を考えている。意見、要望が上がってこないのがアンケートをとる予定である。	○	利用者定員が7名であり生活保護の利用者も受け入れている。管理者は家族の面会や意見など聞きたいと工夫をしているが今のところ意見、苦情など出ていない。今後もアンケートや工夫を行い家族の意見を吸い上げる努力をお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動は最小限にしたいと思っている。管理者の交替があったが兼務としているので利用者へのダメージは少ない。新入職員に対しては1ヶ月くらい先輩職員が付いて日勤を覚えてもらう。その後夜勤を覚えてもらっている。職員の紹介は面会時や3ヶ月毎の便りの中で紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の経験に応じた研修を選び参加してもらっている。保健所でのインフルエンザ研修、社協の認知症の人が安心して暮らせる地域研修、身体拘束研修、苦情に関する研修など参加している。職員は報告書を提出している。報告書は他職員にも見られるよう綴られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。レベルアップ研修、東毛ブロック研修などに参加している。認知症基礎研修、管理者研修、グループホーム大会などに参加しサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者、ケアマネジャーは入所という急激な変化を防ぎ徐々に納得してもらえたいと工夫している。在宅からの場合は訪問し、生活状況などを確認しながら情報をもらってくる。又何日かホームを利用してもらい入居してもらう体験入居などの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩としてその人の経験を大切に会話等している。利用者の人が自分の家族のように話してくれ職員はその人から色々教えてもらっている。料理なども一緒に作ったり一日を利用者と共有し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジャーや職員は普段の会話の中からその人の意向の確認をしている。意向の表出のできない人からは表情や動きなどから察知している。家族からの情報なども参考にして利用者本意の意向の確認に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制をとって担当者はモニタリング評価を参考にケアマネジャーに情報提供をしている。ケアマネジャーはサービス計画を立て会議で職員と共有している。家族に確認を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと随時見直しを行っている。毎月評価、モニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、買い物、美容院、病院への見舞い、介護保険代行申請など柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医となっている。協力病院より週1回の往診がある。家族の希望で協力病院に変更ができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対応したマニュアルが出来ている。管理者は家族の希望を最大限叶えたいと思っている。段階ごとに家族、医師と話し合い、その結果は職員とも共有する事が決められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前年での評価で指摘された事は会議で検討し改善に取り組んだ。声掛けには名前に「さん」をつけ呼んでいる。1人の人は家族希望で名前に「ちゃん」で対応している。浴室を改築してプライバシーに配慮している。個人のファイルは事務所に保管されている。施設と職員の間には守秘義務の誓約書が取り交わされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に食事の時間が決められているが食事も健康状態などで変更などしている。そのほかはテレビを見たりタバコを吸ったり、自由な行動が支援されている。お酒を外食時には楽しむなど、その人のペースや好きなことを大切に支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備など職員と一緒に参加している。利用者の希望のメニューが取り入れられている。野菜などは近所の人からいただいた物やスーパーで買出しに出掛けている。月に一度外食があり楽しみになっている。職員は利用者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回から5回の入浴を本人の体調や希望で支援されている。毎日入浴支援の体勢がある。入浴のほか、足浴、清拭などにも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として掃除、食事作り、食器拭き、雑巾縫い、洗濯物たたみなどがある。楽しみごととして野菜の収穫、ドライブ、コンサート、外での食事、花見、日帰り温泉、飲み物の選択メニューなど楽しみになっている。気晴らしの支援としてスーパーへの買物、タバコ、お酒、玄関先での近所の友人とお茶飲みなどがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの店にショッピングに行ったり(サンキ、とりせん)公園などにも出掛けている。また毎日天気がよければ散歩にも出掛けている。庭先でお茶を飲んだり福祉車両を借りてドライブに出掛けている。日常的に外出の支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵を掛ける弊害を理解している。日中は鍵を掛けていない。見守りを行い安全に対して配慮、工夫を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月と11月に避難消防訓練を行っている。地域の人も参加している。運営推進会議のメンバーが入っている災害連絡網が出来上がっている。夜間、昼間を想定した訓練を行っている。災害を外部に知らせるベルを職員の提案で設置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録がされている。水分量は目安として1000ccとしている。水分量は会議で検討し1日の合計量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターに花が植えられ気持ちを和ませている。椅子も用意され壁には写真、行事案内、作品など飾られている。石油ストーブがあるが利用者に懐かしさとお湯の沸く昔ながらの生活を思い出させている。テーブル、ソファ、テレビなど設置されている。2階に上がる昇降機もあるが階段を使っている人も多く筋力の維持効果もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの個性のある個室となっている。たたみの部屋もあり使い慣れたものが持ち込まれている。人形、箆笥、衣装ケース、ポータブルなど居心地良く過ごせる工夫がされている。		